

別記様式（第4条関係）

会 議 記 録

会 議 の 名 称	令和4年度 教育委員会点検・評価有識者会議	
開 催 日 時	令和4年12月23日（金）13時55分から16時10分まで	
開 催 場 所	市役所 5階 503会議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	座長 梶本雅彦	
委 員 名	（出席者） 早川寿美、藤原紀子、久保欽哉、宮脇昭介	（欠席者 ※ 書面での意見提出） 畑尾浩弥、谷口浩二
事 務 局 名	【事務局】 教育部 大谷部長、小河次長 教育総務課 進藤次長、岩本副課長 【担当課】 こども未来課 岩路課長、岡内副課長 学校教育課 中田副課長、岡田副課長 施設整備課 西林次長 山崎学校給食センター 池本次長 社会教育文化財課 水口課長 まちづくり推進課 中尾次長	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	公開・ 非公開	（非公開の理由） 内部調整会議
決 定 事 項 等	—	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	

※ 社会No.2【人権を尊重した地域づくりや交流活動の支援】については、各委員からの意見に対し、後日、担当課から書面にて回答のあったものを記録している。

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
進藤次長	<u>1. 開会</u>
大谷部長	<u>2. あいさつ</u>
委員、事務局	<u>3. 自己紹介</u>
事務局	<u>4. 点検・評価を実施する趣旨等について</u> (資料1P等により、趣旨や実施方法について、事務局から説明)
事務局	<u>5. 令和4年度(令和3年度事業対象)点検・評価</u> (梶本委員の進行により、資料17～36Pに沿って、点検評価を実施する。) (担当課より資料説明の後、意見交換・質疑応答等を行う。)
担当課	(就学前教育保育について、資料17～20Pにより説明)
●●委員	●就学前1 <u>【発達の過程を見通した教育・保育計画の作成と実践】</u>
●●委員	学校園パートナーシップ事業の実施について、公立については100%ということだが、民間については67%となっている。これは、その機会がないのか、または、民間が望んでおられないのか。
●●委員	幼保から小学校への入学をスムーズにするため、この事業は公立でも民間でも100%実施されることが望ましく、そのための努力が求められるかと思う。
担当課	パートナーシップ事業は中学校区ごとに実施しているが、立地条件等の兼合いから、公立は連携事業に取り組みやすい部分はある。民間についても少しずつ意識は変わってきており、従前は、民間の園を卒業後、連携事業を行う小学校に必ず入学するわけではないこともあって積極的ではなかったかもしれないが、地域での交流が大事ということで取組をお願いしている。
●●委員	文科省も幼保小の架け橋プログラムを推進しており、来年度に向けてカリキュラムを作成しながら、公立も民間も一緒になって、取組を進めていきたい。
●●委員	自分が通うことになる小学校でなくとも、未就学児が小学生を見て感じること、また、小学生が未就学児を見て感じることで、それぞれプラスになる部分は大きい。公立・民間に関係なく、今後も連携事業に取り組んでほしい。
●●委員	公立のこども園に行く機会があったのだが、3歳児クラスで、そのうち2人の

<p>担当課</p>	<p>(支援が必要な)子どもに支援の先生が2人それぞれついておられた。支援の先生は子どものことを本当によく理解し関わられている様子で頭が下がる思いで見ている。</p> <p>最近も行く機会があったのだが、子どもたちは泣いたり怒ったりはしているが、適切な環境・適切な支援のなか本当に自分らしく生活しているその姿を見て、子どもにとって本当に幸せな空間だなと感じた。</p> <p>3歳のころから支援がつくのは連携がないと難しく、また、人材確保にも苦労されているかと思うが、それがきっちり行われていることをうれしく思う。今後も支援を必要とする子は多くなってくるかもしれないが、このまま手厚い体制で子どもにとって幸せな環境が整うよう引き続きお願いしたい。</p> <p>特別支援教育を必要とする子は、年々増加傾向にある。そのなかで、宍粟市は手厚い体制をとれる仕組みを構築している。加配が必要な子どもに対しては、判定会議の中で、1人に1人、または、2人に1人といった形で職員をできるだけ配置するようにしている。</p> <p>幼稚園教諭・保育士不足には悩まされているが、民間の保育園でも保育士の数が足りず受入れが出来ないということもあり、最終的には公立で受けているところもある。</p> <p>今後も人材確保に努め、一人ひとりの子どもに合った支援を、就学前のところでしっかりやっていくことが非常に大事だと考えており、引き続き努力していきたい。</p>
<p>●●委員</p>	<p>小学校との連携について、河東幼稚園では、卒園後、河東小と神野小に通う子どもたちが在籍しているが、幼稚園でいろいろと調整いただき、どちらの小学校ともうまく交流が行われている。</p> <p>また、幼稚園は今すごく人数が減っており、多人数の中での生活・体験が難しい状況だが、幼稚園同士の連携により、山崎・城下幼稚園や波賀幼稚園と合同で行事や授業が行われることで、多人数の中での生活も経験させていただき、保護者としてはとてもありがたく感じている。</p> <p>コロナの関係で実際に会えなかった場合も、手紙やオンラインでの交流もあったので、先ほど意見のあった民間で交流が難しい部分についても、工夫によって交流できるのではないかと思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>公立の幼稚園等でもオンライン環境の整備が終わり、Z o o m等のソフトを使って小学校とつながり、コロナ禍で制限はあるが工夫しながら交流している。子どもたちも同年齢との関わりだけでなく、異年齢、小中学校の児童生徒との関わりで学ぶこともたくさんある。また、教職員同士が関わりを通じて相互理解を深めることも非常に効果があると感じているので、今後も工夫をしながら</p>

<p>●●委員</p>	<p>公立・民間とも取組を継続していきたい。</p> <p>(書面による意見)</p> <p>民間においても支援を必要とする未就学児については、教育委員会や専門家等の指導に基づき、特に具体性を重視し、ローステップの目標を考えながら計画を立案し、支援を行っている。</p>
<p>●●委員</p> <p>担当課</p>	<p>●就学前2</p> <p>【子育て支援の充実】</p> <p>家庭での読み聞かせの応援に取り組んでいるかどうかについて、公立100%、民間78%とあるが、具体的にはどのような取組か。</p> <p>毎月購入している月間絵本の持ち帰りのほか、貸出し絵本の取組を各園所で行っている。園所にあるたくさんの絵本の中から自分の好きな絵本を週末に持ち帰り、家庭で読み聞かせをしてもらう取組になる。</p> <p>取組の中で、絵本を持ち帰ったが読まないまま返却している事例もあったため、貸出しカードを作り誰に読んでもらったかサインをもらうなど、工夫をしている。父母に限らず、祖父母に読んでもらってもいいということで、参観日等の機会を通して、保護者の方にも周知をしている。</p> <p>コロナ禍で自宅時間が増えたことにより、読み聞かせの時間も増えたとの意見もあるが、時代の流れもあり、昨年度よりも今年度のほうが定着率の部分で低下している。</p> <p>また、読まれる家庭ではよく読まれているが、就労される保護者が非常に増えて、なかなかゆとりを持った時間がとれないことが課題と感じている</p>
<p>●●委員</p> <p>担当課</p>	<p>保護者同士で、絵本の読み聞かせについてなぜ定着しにくいのか話し合ったことがある。ただ面倒くさいという保護者もいる。うちの場合は子どもが寝る前に必ず1冊本を読むと決めている。保護者が頑張っていていくうちに、子どもも絵本を読まないで寝られなくなってくる感じで習慣になってくる。今では子どものほうから寝る前に「これ読んで寝よう。」と言ってくる。</p> <p>その他にも事例があると思うので、そういった上手く習慣づいた家庭の具体例を示して、情報を発信していく必要もあるのではないか。</p> <p>保護者同士で意見交換をしていただき大変ありがたく感じる。</p> <p>参考にさせていただき、今後そういった習慣づいた具体例を紹介しながら、定着率の向上に向けて、公立・民間とも取り組んでいきたいと思う。</p>

<p>●●委員</p> <p>担当課</p>	<p>各園所の図書の品揃えについて、子どもが読みたいと思い、また、保護者が読み聞かせをしやすい図書が充実しているかどうか、確認・点検はできているか。</p> <p>公立の園所では、教育委員会の図書館司書が、年間を通して各園所を見回り、絵本の点検等を行っている。また、季節に応じた絵本については、各園所で工夫しながら、子どもたちの目につきやすいところに並べたりしている。</p> <p>品揃えについては、予算の確保に加え、毎年、西兵庫信用金庫から図書券の寄贈もあり、それらを図書の充実に充てている。</p>
<p>●●委員</p> <p>担当課</p>	<p>(書面による意見・事務局が報告を代読)</p> <p>子育て支援の充実については、乳幼児子育て応援事業などを通して電話での相談を行い、また、園庭を解放して見学希望者に来ていただいた際に、その都度、職員と保護者との相談の機会を設けるなどしている。ただ、新型コロナの関係で、園庭開放も難しくなり、希望があっても遠慮いただくことも多いのが現状である。今後はコロナ前の状態に徐々に戻していきたいと考えている。また、絵本を通じて親子の触れ合いの機会となることを願って、民間の各園所で少しずつ方法は違うが、毎月2回の貸出し文庫などを行っている。</p> <p>(学校教育について、資料21～30Pにより説明)</p>
<p>●●委員</p>	<p>●学校 1-1</p> <p><u>【「生きる力」の育成～確かな学力・豊かな心・健やかな体～】(学校)</u></p> <p>しそく学力向上検討委員会について、単年度で成果が出るものではないが、地道に取組を継続する必要がある。</p> <p>また、学力テストの中の生活様式等のアンケート結果を見ると、教師にとっては誇りに思うような結果が出ており、これは教師の支えになっている。</p> <p>もう一つ気になる点として、小学校の体験活動について、非常に充実しているのだが、3年生が県の施策、4年生が市独自の施策、5年生でまた県の自然学校という三つの流れがあるが、3年生4年生のうちに実粟をぐるぐる回るので、5年生になったらやる事がなくなる。カヌーにしても4年生のうちに取り組みたいが、5年生になった時のために置いておくといった具合である。</p> <p>自然学校が始まった当時、波賀小に勤務していたが、自分たちで色々プログラムを考えていた。また、子どもとも一緒になって、こんなことができないか、あんなことができないかと考えていた。それが自然学校の本来の在り方だと思う。</p>

	<p>しかし現状では、毎年同じプログラムになってしまっている。</p> <p>加えて、自然学校の拠点（波賀）が安心して活動できる場所になっていない。一般のお客さんがどんどん来る場所で、せっかくのフリータイムも子どもは外でなく室内で活動している状況である。</p> <p>自然学校の数日間の活動では、自然・社会・人との出会いを通じて、また、自分自身と向き合い不安で心配やったけど数日間やり通せたと自信を持つことが非常に大事だと思う。</p> <p>そういったことから自然学校は大事な取組だと思うのだが、現状では自然学校の本来の良さ、魅力が消えつつあるのではないかと心配している。先生が楽しくなかったら楽しくないと思う。原点に戻って、プログラムや場所を検討していく必要があると思う。</p>
担当課	<p>貴重なご意見で参考にさせていただきたい。</p> <p>実施場所・宿泊場所については、現状ではフォレストステーション波賀を拠点に活動しており、移動にはバスが必要になる。</p> <p>令和3年度の自然学校について、コロナの関係もあり、宿泊数が減っている。宿泊数が減ると、県費の補助金、補助率が下がっていく仕組みとなっている。また1日開催ということになっても、学校から離れてどこかに出かけないといけなことから、必然的にバスの回数も増え、昨年度はバス代を捻出するのも苦しいとの意見も学校からあった。</p> <p>また、拠点の在り方については、おっしゃるように安心して活動できない部分もあると感じている。</p>
●●委員	<p>学力向上検討委員会について、すぐに成果が出るものではないと思うが、非常に大事な取組だと思うので、継続して取り組んでほしい。</p> <p>中学校で教師をしていたが、宍粟の子は高校に行ったら伸び代のある子が多いと思う。それは学力云々以前に、学び方を学んでいるとか、いわゆる自己肯定感が高いとか、自分はやればできるんだと思っているとか、そういった良いところがたくさんあるので、その辺を今後も大事にさせていただきたい。</p> <p>また、学力向上の肝は授業だと思うが、今は若い先生が多く、その若い先生にいかにして力をつけてもらうか、その部分の仕組づくり、組織づくりに注力してもらいたい。</p>
担当課	<p>昨年度から新たな取組として提言シートを作成している。そのシートに基づき分析を行って課題を抽出し、改善に向けて取り組むこととしている。</p> <p>また、若い先生たちが半数を占めている状況であるので、若い先生の授業力の向上・授業改善は、学力向上には欠かせない。</p> <p>ただ、授業改善については、1から10まで全部、あれもこれもとではなく、来</p>

<p>●●委員</p>	<p>年はこのことを重点的に取り組もうといった形でテーマを絞って、全ての教職員に共通認識してもらいたい思いがある。</p> <p>なお、1月6日に例年開催している教育研究大会があるが、今年度の大きなテーマとして、学力について、報告・講演を行う予定である。</p> <p>トライやるウィークのことだが、私も自身の会社で受け入れしているが、コロナ禍で受入れ先の確保に非常に苦労されたと思う。</p> <p>日頃から事業所とつながりを持っておくことが大切かと思う。</p> <p>今回のトライやるウィークではコロナ禍でこれまで受け入れていた事業所が受入れできなかったようで、私の会社には4人の生徒が来てくれて、楽しく仕事に打ち込んでくれた。トライやるウィークを受け入れると楽しいもので、その雰囲気をも他の事業所にも感じてもらいたい。</p> <p>また、自然学校について、以前は、PTAの役員も一緒に行って、子どもや先生との交流があった。今はそういったことが減ってきていると思う。PTAの皆さんも仕事等の事情があるかと思うが、一度検討してもらえればと思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>●●委員にはトライやる受入れのこと等でいろいろとお世話になっている。卒業生が委員のところで就業しているケースもあり、それらもつながりがあることかと思われ、また、そういった意識づけを子どもにさせることも大事かと思う。</p> <p>自然学校についても、それぞれ学校の特色が出せるということで、検討していきたい。</p>
<p>●●委員</p>	<p>●学校1-2</p> <p><u>【「生きる力」の育成～確かな学力・豊かな心・健やかな体～】(給食)</u></p> <p>全国学校給食甲子園での優勝、本当に誇らしく思う。</p> <p>学校現場から離れ、給食がなくなって、どれだけありがたかったかということがよくわかる。毎日違う献立で温かい食事が低価格で食べられるということ、このありがたさを子どもたちに伝えることが大事だと思う。</p>
<p>●●委員</p> <p>担当課</p>	<p>川戸の農家の方に話を伺う機会があった。</p> <p>トマトのハウス栽培をされているが、大きくまとめ買いをしてくれるところがあればとのことだった。価格的な問題があるかもしれないが、現状、給食センターではどのようなになっているのか。</p> <p>トマトについては、山崎の場合は、JAの旬彩蔵から仕入れている。給食セン</p>

<p>●●委員</p> <p>担当課</p> <p>●●委員</p>	<p>ターでは直接生産者とのやり取りはしていないが、河東の農家の方から納品されていると聞いている。価格的には、一般的なスーパーの単価よりも若干安い価格となっている。やはり大量に納品ができ、それを全て買い取るという流れになっているため、余りが発生しないことから、市場価格より安い仕入れとなっている。</p> <p>●学校 2</p> <p><u>【小中一貫教育の充実】</u></p> <p>小中一貫教育については9年間の見通しがポイントになる。 最近は子どもの発達段階を考慮して、6・3制ではなく4・3・2制に移行しているところが多いと聞く。</p> <p>また、宍粟市で小中一貫教育を立ち上げた際、私の感覚として、一番大変なのは児童生徒、次に保護者、先生は何とかなると考えていたが、はじまってみると一番簡単だったのは児童生徒、次に保護者、一番意識改革が難しかったのは先生だった。原因は小学校と中学校の壁だと思う。</p> <p>小中一貫が推進されているが、先生方は本当のところどう思われているのか。これを覆していくには機構改革しかないと思う。</p> <p>4・3・2制にして、小中をシャッフルするぐらいの意識が必要だと思う。宍粟のなかで一番先頭に行く一宮北学園から発信していく必要があると思うが、現状、発信力が弱いと思う。</p> <p>大変だが、本当に小中の隔たりをなくしていこうと考えたときには、6・3制のままでいいのか、その辺の議論が必要なのではないか。</p> <p>6・3制、また、4・3・2制という小中学校の区切りの部分の考え方については承知している。小中一貫教育の推進に係るさまざまな決定をする際は、地域、保護者、教職員の代表者の方に集まっていただき、プロジェクト会議を立ち上げ、1年間かけて丁寧に協議し、スタートの準備をしているが、現在のところ、それらの協議の中では、6・3制のままでという意見が多かったため、一宮北学園・千種学園では6・3制を採用している。</p> <p>今いただいた意見も含めて、今後も丁寧に協議をしていきたい。</p> <p>宍粟の小中一貫校は、義務教育学校ではなく併設型かと思う。 令和3年度の実績では、小学校4名・中学校4名に対して兼務辞令が発出され、人事交流を行っているようである。</p> <p>自身の経験で、コミュニティースクールや中高一貫教育が導入された時期があったので、教育委員会に兼務辞令の発出をお願いしたことがある。辞令が発出されたほうが教職員は動きやすい。</p>
------------------------------------	---

<p>担当課</p>	<p>小中一貫、また、中高一貫もそうだが、●●委員が言われたように、小中の壁・中高の壁は、教師が一番高く、子どもはすぐに慣れてくる。 特に小学校の教師が中学校に行くというのは、抵抗が強いように感じた。 そのため、兼務辞令を発出できるだけ発出し、交流できる環境を整備していくことが、小中一貫教育の充実につながると思う。</p>
<p>●●委員</p>	<p>兼務辞令に関しては、教師の免許の所有状況と学校の状況が基になるが、ご意見のあった小中連携事業や小中教員の交流授業等の推進も考慮し、学校等と協議しながら丁寧に進めていきたい。</p> <p>●学校3 <u>【宍粟の特性を踏まえた教育環境整備】</u> 不登校の児童生徒の支援にタブレットを利用する学校が増えてきている。ネット環境・タブレットの効果的な利用方法の1つかと思う。つながりをつくるという意味で、工夫して取り組んでいただきたい。 今後、技術の進化も含めて、さまざまな取組や参考にしたい実践例もたくさん出てくるかと思うので、そういった情報を適切に収集して、教育委員会と学校、また、学校間で共有していくことが必要になってくるかと思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>児童生徒が不登校で在宅している場合、また、教室に入りづらく別室で学習等を行う場合にも、多くの学校において、タブレットを通じて、教室の仲間と交流したり、また、教室で行っている授業等を視聴するといった取組を進めている 今後も、学校と協議しながら、タブレット等の効果的な活用を進めていきたい。</p>
<p>●●委員</p>	<p>(書面による意見・事務局が意見を代読) ICT機器の整備としてタブレットが備えられ、コロナ禍においても、自宅待機となる子どもが自宅で授業が受けられる環境が整えられている。今後もネット環境を生かした学習支援に尽力いただきたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>(社会教育について、資料31～36Pにより説明)</p>
<p>●●委員</p>	<p>●社会1 <u>【みんなが参加できる生涯学習事業の推進】</u> 学びパスポートを持っていろいろな形での取組、また、さまざまな研修や講義があり、皆さん若々しく、取り組んでおられる。話をうかがっても、行くのが</p>

<p>担当課</p>	<p>楽しみとか、これをやってみたいなど、やりがいを感じて参加されている方が多いと感じる。私自身もうすぐ老人会に加入する年齢だが、参加しやすい雰囲気かと思う。</p> <p>現在、団体の数はいくらぐらいあるのか。</p> <p>旧町単位でそれぞれ大学を設置し、講座を開設している。</p> <p>また、それぞれクラブ活動も行われており、その数は、山崎は21、一宮は6、波賀は5、千種は12となっている。</p> <p>また山崎では、一般教養講座以外に専門講座も設けて活動されている。</p>
<p>●●委員</p>	<p>(書面による意見・事務局が意見を代読)</p> <p>今年もコロナ禍の中で開催が難しい中、さまざまな活動に取り組まれている。その魅力を、しそチャンネル等でも放映されているが、市が持っている他の媒体でも発信し、今以上に興味を持ってもらえればと思う。</p>
<p>●●委員</p>	<p>●社会2</p> <p><u>【人権を尊重した地域づくりや交流活動の支援】</u></p> <p>市民が参加するイベントとして、また、若者をはじめ、さまざまな世代が興味を持てる内容で、ずっと継続して取り組まれているのは大変意義のあることだと思う。</p> <p>また、去年はさかなクン、今年は米良さんが講演を行われたとのことで、今後も魅力のある、集客力のあるゲストを呼んでいただきたい。</p>
<p>●●委員</p>	<p>(書面による意見)</p> <p>令和3年度はさかなクン、令和4年度は米良美一さんを招いてS1グランプリを開催されたとのことで、大変好評だったと聞いている。人権問題に触れていただくきっかけづくりとして、大変有意義なイベントであるので、今後も継続的に実施していただきたい。</p> <p>また、コンテストの応募者が増えていくよう周知の方法等を工夫して行っていただきたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>S1グランプリのテーマは「命」であり、絵画、工芸品、動画などの作品を作成する過程で、命の大切さについて考えてもらいたい。</p> <p>出品いただいている作品は、どれも趣旨に沿って命について考えられたことがうかがえるものとなっている。</p> <p>講師は、命について講演していただける方で、若者にも認知されている方から</p>

	<p>選考している。昨年度はさかなクンを招き、生き物の命について講演いただいた。本年度は米良美一氏を招き、自身の人生を振り返りながら生きることについて講演いただいた。</p> <p>特に本年度は参加者から高評価をいただき、アンケートの結果を見ても参加者の心に染み入るような講演を実施できたと受け止めている。</p> <p>今後もこのような講演会を実施できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>また、コンテストへの応募数が多いとまでは言えない状況であることから、小中学校にも協力を求め、募集期間を長くするなど工夫を行い、多くの方に応募していただけるよう取り組んでいきたい。</p> <p>●社会3</p> <p>【生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の支援】</p> <p>●●委員 子どもの数が少なくなったと感じる。ソフトボールの審判をやっているのだが、2校で1チーム作るのがやっとの状況で、他の競技でも同様の状況があるのではないかと思う。</p> <p>出生率も高くなく、もう10年15年もすれば学校運営が厳しくなり、また、こういったスポーツ活動をするにも人を集めることがますます難しくなってくる状況かと思う。</p> <p>また、ラジオ体操については私も取り組んでいるが、健康には一番良いと思う。コロナ禍でさまざまなことが制限されているが、もっともっと普及活動に努めていただきたい。事業所等に働きかけてもらいたい。</p> <p>担当課 策定中の宍粟市スポーツ推進計画のなかでは、ラジオ体操の推進という項目を掲げ、市を挙げて取り組むこととしている。ラジオ体操推進団体の取組も始め、令和3年度は2団体の登録があった。</p> <p>今後この計画のもとで、市民の皆さまに考え方や活動が浸透していくよう、周知をはかっていきたい。</p> <p>●●委員 (書面による意見・事務局が意見を代読)</p> <p>ウォーキングコースを設置されているが、地域の魅力を感じられるようなコースが組立てられており、引き続きコースの整備を期待したい。</p> <p>●●委員 学校教育にも関連するが、小学校の規模適正化が推進されており、スクールバスでの通学が増えていることから、子どもの体力の低下が懸念される。</p> <p>あわせてコロナ禍で活動が制限されていることもあり、室内で交流が出来る遊べるツール等も活用されたい。</p>
--	--

<p>担当課</p>	<p>生涯スポーツの観点から考えると、子どものときにその素地ができると思う。そのため、子どもの体力の向上、スポーツに親しむ機会の創出に、教育委員会を挙げて注力していただきたい。</p> <p>宍粟市では学校園と協力し、しーたんチャレンジという取組を行っている。走る・投げる・跳ぶをテーマに、ボール投げや走り幅跳びなどの種目について、園所に在籍の未就学児から小学生まで継続して計測を行い、その数値を全国平均と比較をしながら、弱い部分については、授業等でその解消に向けた運動等を取り入れている。今後も、学校と連携をしながら、体力の向上と健やかな子どもの成長を見守る仕組みとして、継続していきたいと考えている。</p>
<p>●●委員</p>	<p>学校以外のプールとして、波賀と千種にはB&Gがあり、一宮にはスポニックパークがある。ただ、山崎にはない。山崎の1番人口が多いところにプールがないのはおかしいと思うので、子どもはもちろん、おじいさん・おばあさんまで、生涯スポーツの一つとして、1年中泳いだり歩いたりできるプールが山崎町内にもあればと思う。検討していただきたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>これまで宍粟市にはスポーツ推進計画という根幹をなす計画がなかったのだが、今年度中に策定を予定しており、その計画を受けて、市内のスポーツ施設の長寿命化計画についても、来年度以降、策定する予定としている。</p> <p>今いただいた意見があることは承知しており、市として、人口減少が進む将来を見据えながら、予算等の大きな課題もあるなかで、どういった施設が必要で、どういった管理・運営等が適正なのかという視点で、市民の皆さまの意見もいただきながら、スポーツ施設の在り方を検討していきたい。</p>
<p>●●委員</p>	<p>ライオンズクラブのマラソン大会を市役所横の揖保川河川敷で開催できないか検討している。子どもたちの走る姿を高台から家族が見学できるような形で開催ができればと考えている。それに伴って、一部河川敷等の整備が必要になるかもしれないが、整備を行うことで、大会だけでなく、河川敷をランニングしたりウォーキングしたりするなど、一般市民の利用も増えるのではないかと思う。</p> <p>また、マラソン大会の開催にあたっては、学校にも協力いただきたいと考えている。休日の開催であり、学校に頼らない運営に切り替えてきているが、大会を盛り上げていくためにも学校に協力いただき、それにより、参加者が増えることで、子どもたちの体力の向上、健康な体づくりにもつながると思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>揖保川河川敷については、整備にあたっては河川法の規制があり、公費での支</p>

小河次長	<p>援ができるものなのか、まずお話をうかがったうえで、検討させていただきたい。</p> <p>また、学校の協力の部分については、昨今、教職員の働き方改革の問題もあり、以前は、ロードレース大会であれば、学校ごとにのぼりを立てて、先生が引率をされる風景があったが、現在はコロナ禍ということもあり、各家庭での参加ということで、昔の雰囲気からは変わってきている。</p> <p>担当課としても、学校園所と連携をとりながら、どういった開催方法がいいのか検討しており、学校側の意見を聞かないと分からない部分もあるが、今後、担当課の協力が必要ということであれば、一緒に考えていきたい。</p> <p><u>6. 閉会</u></p>
------	--